帰ってきたチャンバラは「護身道」気軽で実用的スポーツ

サンケイスポーツ　平成7年(1995年)8月27日　日曜日

日曜スペシャル

「振り回しているだけでストレス発散」

女性、若者、お年寄りまで 護身術プラス体力増進

チャンバラでスタミナ作り、ストレス発散！　おじさんたちには懐かしい遊び、チャンバラ。遊びといえば、パソコンゲームしか知らない最近の子供たちには、もはや〝死語〟になってしまったチャンバラが、スポーツとして帰って来た。「スポーツ・チャンバラ」は年々、子供や女性の愛好者も増え、世界大会も開かれているという。今、なぜチャンバラなのか？　大阪市淀川区十三のチャンバラ教室（履正会館内）をのぞいてみた。

昔懐かしいチャンバラでストレス発散。「スポーツ・チャンバラ」は、静かなブームに…

武器を体に当てれば勝ち

「バチン！」

迫力のある音が飛び交う。カメラを構える記者の方へ体が迫ってくる。まず驚いたのがその迫力だ。子供時代にやったチャンバラごっことはだいぶレベルが違う。剣道のように決まった構えはないが、真剣そのものだ。トントンと、リズミカルにステップを踏む人、ぐるぐると腕を回して迫る人、しぐさは遊びのようだが、攻撃の一瞬はスリルがある。

「プラスチックの芯にウレタンを巻いているので、見ているほど痛くないんですよ」とこの教室の指導者で、大阪スポーツチャンバラ協会の大畠二六雄会長(五五)。自ら教師7段の腕前。他に剣道、居合、銃剣道、合気道とそれぞれ数段ずつ持っている。

そんな人がなぜこのチャンバラを？　と思ったが、スポーツ・チャンバラとは愛称で、本来は「護身道」という武道。日本の古武道に伝わる十手術や小太刀道を研究して作られたという。そこで、剣道とは違った実用性が見られる。

練習では主に小太刀(長さ60㌢)を使うが、他に1㍍の長剣、槍、杖、棒、なぎなた、短刀など豊富な種類の武器があり、小太刀対槍、長剣対棒などといった試合も行われる。勝負のルールは体のどこを狙ってもよく、先に当てれば勝ちと明解。実際、真剣勝負であればどこを斬られても致命的になるからだ。

道着は空手着と同じだが、基本的には自由。防具としては頭にかぶるマスクのみ。これは目と耳を保護する軽いもの。剣道の重い防具と異なり、動きは軽やかだ。

「剣道の有段者が初心者に負けることもあるんですよ」(大畠会長)

剣道は基本的に振り下ろしと突きだが、チャンバラの場合は、回し打ちや横に切るなどどんな攻撃があるか分からない。足も狙われる。スピードも速い。大畠さんの経験ではバドミントンの体験者が結構強いらしい。

「他の武道のように堅苦しさがなく、気軽にできるのがいい」と18歳の男性。75歳でタクシー運転手をしている男性の場合は「打たれた時に、どういうふうに避けたらいいかがわかり、災難にあったときに役立つのでは…」という。「護身術として始めたが、振り回しているだけでストレスの発散になる」とは20代のOL。始めた動機、魅力はまちまちだが、気軽にできる自由さが人気の秘密のようだ。

運動量も多く、楽しみながら体力増進や敏しょう性アップにつながる。あらゆる攻撃に対して身を守る護身術にもなるとともに実用性も十分。最後に4人対3人に分かれての対抗戦を見せてもらった。武器もそれぞれ自由。これぞ格闘技の醍醐味。昔の戦(いくさ)を見ているようだ。女性や若者、お年寄りまで一緒になっての大合戦。あなたも平成の武蔵、小次郎になった気分でチャレンジしてみては…。

スポーツ・チャンバラの愛好者は全国で約7万人。大阪地区では大阪府護身道連盟（大阪スポーツチャンバラ協会）の下に30支部があり、約1000人。海外にも普及し、世界大会には30カ国が参加する。大阪・十三の教室では毎週日曜日午後3時から同4時半まで練習。修業の成果が認められると、連盟本部から段・級位を贈られる。詳しい問い合わせは連盟事務局（☎0724・83・2052）へ。